



ENGINEER® の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

第6回 MPDP 理論の実践：ムッシュ・マグニの場合 ⑤

[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

ウ：これが完成したパッケージでんな？ ふたを開けたら、アイコンそのまんまのオッチャンが立ってはるし。可愛いですやん！

高：「この人がムッシュ・マグニ！」ということがすぐに分かるだろう？

ウ：うん！ さて、パッケージもできたし、いよいよ販売開始でんな！

高：ところが、まだ最後の仕事が残っているんだよ。

ウ：えっ、最後の仕上げ？ 社長はんもポワロ髭にするとかでっか？

高：そう、先っちょをカールさせて……って何でやねん！ 「MPDP理論」を思い出してごらん。

ウ：え～と、最後のPちゅうことは……プロモーション！

高：そのとおり。新製品ができたなら、それをしっかりとお客さんに伝えることが大切なんだ。特にイノベーションな製品であればあるほどプロモーションが重要になってくる。

ウ：二番煎じや三番煎じのメーカーさんはその点、楽でんな～。(@_@)

高：ムッシュ・マグニは、磁石が付いていて、折り畳めて、携帯性に優れた新発想のルーペなんだ。

ウ：ネーミングは面白いし、ヒゲのオッチャンも可愛い、パッケージも斬新やけど……、「変幻磁在」機能をどうやってアピールするか難しいでんな？

高：そこで店頭モニターで流せるプロモーションビデオを何種類か制作することにしたんだ。

ウ：YouTubeにもアップしてまっか？ 動画見たい！

高：1つ目はヒゲのオッチャンが舞台上で登場して、Monsieur Magniの商品説明をするんだ。

ウ：「タイムボカン」のドクロベエさまそっくりの声ですやん！ ポワロの声にも似てるし、面白い！

高：2つ目はドイツの友人に頼んでベルリンで撮影してもらった。英語の説明があるので海外プロモーションにも使えるだろう。

ウ：名前がMonsieur Magniやからヨーロッパ製かと思われるかもね。雰囲気出てるし、ええ感じ。

高：3つ目はCGを駆使したクールなアスリート！

ウ：変幻磁在ルーペだけに、動画もバリエーション豊かでんな～。ところで、このフランス語講座って何でっか？ 社長はんも出てますやん。



高：あっ、これはおまけだよ、オマケ！ (^_^)

ウ：見せてえな！ Monsieur Magniを何回か発音してはるわ……。最後の発音でトレビアン！？ どこが違うんやろ。同じに聞こえるし～。

高：アップになっている部分にヒントがあるんだ。

ウ：あっ、分かった～！ 《バンザイ!!!》

高：プロモーションが大切だということも分かってくれたかな？ (*^_^)

弁理士に2階からお酌されている中小企業の経営者

今回はMPDPのなかで中小企業の最大のボトルネック、P（パテント）についてお話ししたいと思います。

大企業であれば知財部員が数百名、社内弁理士を数十名抱えている会社も珍しくないでしょう。彼らは研究開発チームの発明・考案をどうやって企業の利益に結び付けるかという極めて重要な仕事をしています。しかし、当社のような社員30名の企業に知財部はありません。

弁理士を雇用するのもハードルが高い……。ではどうするか？ まずは特許事務所に相談に行きます。

「こんな工具を考えましたが、特許になりませんか？」

弁理士は一生懸命、説明してくれます。

「特許はこう、実用新案はどう、部分意匠もある、海外での商標はどうする、PCTかパリルートか選びましょう。費用はこれだけかかりますが、どうしますか？」

こちらは説明されたことのほんの一部しか理解できません。結局、消化不良のまま費用だけで判断してしまったり、どうするのがベストな選択なのかも分からないので、出願もしないというケースがほとんどでした。

そんななか、私は2005年に「知的財産管理技能検定」の存在を知り、3級、そして2級の検定に合格しました。それまで、「意匠と商標の“しょう”はどんな字だっけ？」とボンヤリしていたのが、本資格の取得によってクリアになりました。「目からウロコとはこのことか！」と感動したのを今でも覚えています。

この後、再び特許事務所を訪れると、それまでは2階からビールを注いでもらっていた感じでしたが(笑)、自分が少し階段を上ったことで、冷えたビールがきれいにグラスへと注がれていく気がしました。

ま〜、とにかく話がよく分かります。「まずは国内出願してPCTルートで30カ月以内に対象国を決めましょう。意匠も同時に出願したほうがいいですね、了解です！費用はこうすれば節約できますね。じゃあ乾杯〜！」

目指せ！ 知財技能士在籍率の世界一

知的財産管理技能検定は2008年に民間検定から厚生労働省管轄の国家資格になりました。年に3回（3、7、11月）、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で検定試験が行われています。

合格率は3級が60~70%、2級が40~50%、1級は10~20%といわれていますが、まずは3級で十分です。

3級を取得すれば、「本州（特許）がここで、北海道（実用新案）がこっち、四国（意匠）がここ、九州（商標）がこっちで、尖閣列島（著作権）って意外と南にあるんだ〜」と日本の知財制度を俯瞰することができます。

官公庁や民間団体が主催する知財セミナーは、トピックスを知るには有効ですが、まずはその前提となる制度全体を理解することが重要です。ビジネスマンや学生のベーシックスキルとして本検定の3級取得をお勧めします。

当社では全社員にこの資格取得を勧め、開発部門を中心に資材部、営業部も含めて現在7名が取得済みです（2級：4名、3級：3名）。30人中7名という比率はおそらく日本（世界？）一ではないでしょうか。また、来年中には全社員の半数が知的財産管理技能士（略称：知財技能士）になることを目指しています。

中小企業の最大のボトルネックであるP（パテント）を解消するツール、それが知財技能士です。また、大企業の知財部員と研究開発部員の関係は、弁理士と中小企業の経営者の関係にそのまま当てはまります。企業規模にかかわらず、本検定制度を活用することで、MPDPのP（パテント）を強みに変えることができるのです。

「一家に一本、ネジザウルス！」

「一社に一人、知財技能士！」

次号以降は、「Monsieur Magni（ムッシュ・マグニ）」のデザインについて、「セキララ！？」にお話しさせていただく予定です。ウルス君との掛け合いもどうぞご期待ください！